Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-24

死からの生還 ： 胃癌の経験（医師のライフスタイルと健康）

小沢, 和哉

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 13:113-114

(Issue Date)
1997-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007528

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007528

KOBE UNIVERSITY

医師のライフスタイルと健康——

死からの生還

——胃癌の経験——

小　沢　和　哉（専25年卒）

30年以上前に十二指腸潰瘍をやり，それ以後忙しくなると，しばしば空腹時の心窩部痛に悩まされていました．特に，午後1時，2時の会合のある日に限って午前中の診療がおくれ，そんな時には必ず不快な疼痛に襲われることが多く，そのうちに考えました．世の中は自分一人で生きているのではなく，自分は自分なりに全力を出して仕事をすれば，あとは成行きに任せるしかない．会合の時間でも，どのようにあせっても，物理的に不可能なものは仕方がない．そう考えるようになり，永年の痛みから開放されるようになりました．

それでも，月に1～2回は，薬を必要としない程度の心窩部不快感～圧重感はありました．

毎年医師国保組合の検診を受けておりましたが，いつも高コレステロール血症と，胃の間接撮影では要精検の指示がありました．これも十二指腸潰瘍の反復による同部の強度の変形と判断して，精検はサボッておりました．

日常生活では，あまり無理もしておりませんが，ただ気儘から魚貝類は殆んど食べず，肉食が主で，酒は飲まず，タバコは1日30本程度で

した．家系的には，父は放射線潰瘍による手指の切断，更に乳癌を含め数度の手術を受けており，強度の坐骨神経痛により死亡しております．母も肝癌，父方の祖父も母方の祖父も胃癌で死亡しており，私もいずれは胃癌になるのではないかとの懸念は持っておりました．

1昨年7月末（67才），久しぶりにやや強い心窩部痛があり，H_2ブロッカーの服用により2日で消退しました．ヤレヤレと思いましたが，家人の強いすすめにより，自分の診療所で初めて胃内視鏡の検査を受けました．

その結果，胃体底部に，粘膜面よりやや突出して異型上皮巣が認められると云われましたがさして気にもならず，数日後に予定しておりました旅行に出かけました．10日後帰宅した処，組織検査でグループⅢ，一部Ⅳと診断されたとのことで，既に入院手術の手配がしてあると云われました．グループⅤの所見がないから経過を見たいと反対しましたが，ムリヤリ入院させられました．この時点では，食欲良好，心窩部不快感，疼痛などは全くなく，体重も不変でした．

お蔭様で手術はスムーズに行われ，その後順調な経過をとっており，術後1ケ月はタバコを止めておりましたが，最近は又元へ戻っており，近いうちに禁煙をと思いながら，まだ止められません．

術後困ったことは，ズボンがガバガバになったことと，食事が定量以上は受付けられないことです．特に，ズボンについては，体重増のために3年前にすべて拡げてしまったのでどうにもなりません．

健康法としては，特に注意はしておりません．ただ，ゴルフをやりませんので，5年前よりヘルスクラブに入って，週1～2回の運動は続けております．これは，運動をやった日は，あとが何となくスッキリしたような感じがありますので，挫折せずに続けております．自分の経験から云えることは，皆様もよくご承知の通り，早期癌には全く自覚症状はありません．従って，毎年検診を受けられて，早期発見，早期治療に心掛けて頂くようおすすめ致します．